

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 16 日現在

機関番号：37116  
研究種目：若手研究(B)  
研究期間：2012～2013  
課題番号：24790599  
研究課題名(和文)雇用形態別に見た企業における組織的公正と従業員への健康影響に関するコホート研究  
  
研究課題名(英文)A cohort study on the association of organizational justice with health outcomes by employment status  
  
研究代表者  
井上 彰臣 (INOUE, Akiomi)  
  
産業医科大学・産業生態科学研究所・助教  
  
研究者番号：70619767  
  
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、企業における組織的公正(手続き的公正および相互作用的公正)が従業員の心身の健康に与える影響について検討するとともに、これらの関連が雇用形態(正規社員/非正規社員)によって異なるかを検討するために、製造業の2つの工場に勤務する従業員約3,000名を対象に、1年間の前向きコホート研究を実施した。

研究成果の概要(英文)：A one-year prospective cohort study of about 3,000 employees from two factories of a manufacturing company was conducted to examine the association of organizational justice with physical and mental health outcomes. Furthermore, whether this association is different by employment status (i.e., permanent vs. non-permanent employees) was also examined.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・衛生学

キーワード：組織的公正 職業性ストレス 理論モデル 非正規雇用 前向きコホート研究 質問票 生理指標 産業保健

## 1. 研究開始当初の背景

これまでに、海外(主に欧州)の研究では、企業における組織の公正性(組織的公正:職場の意思決定の手順の公正さに着目した「手続き的公正」と上司の部下に対する公正な態度に着目した「相互作用的正義」からなる)が損なわれた状態が、従業員のうつ病や虚血性心疾患と関連することが明らかになっており、これらの関連の詳細なメカニズムを解明するために、虚血性心疾患の危険因子であるメタボリック症候群などとの関連も調べられていたが、わが国では、組織的公正とその健康影響に関する研究は限られていた。また、非正規雇用の問題も、産業保健の中で取り組むべき課題として挙げられていたが、組織的公正が従業員に与える健康影響について、雇用形態(正規社員/非正規社員)別に検討した研究は、国内外ともに実施されていなかった。

## 2. 研究の目的

本研究では、従業員を対象とした1年前の前向きコホート研究によって、企業における組織的公正が損なわれた状態が、従業員のうつ病をはじめとするメンタルヘルス不調や、虚血性心疾患の危険因子となる各種生理指標(高血圧や脂質異常症)の悪化に影響を及ぼすことを明らかにするとともに、これらの影響を雇用形態別に検討することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) ベースライン調査の実施

平成24年度は、製造業の2つの工場に勤務する従業員3,461名(男性2,495名、女性966名)を対象にベースライン調査を実施した。ベースライン調査では、組織的公正や精神健康度について尋ねる自記式質問紙を配付した。同時に人事データより雇用形態に関する情報および当該年度の定期健康診断データを取得し、質問紙の回答内容と統合し、ベースラインデータを作成した。ベースライン調査への回答者のうち、少数であった男性非正規社員(34名)およびデータに欠損値のあった352名を除外し、男性正規社員2,229名、女性正規社員351名、女性非正規社員495名のデータを用いて、横断的な関連を検討した。

### (2) フォロアアップ調査の実施

平成25年度についても、前年度と同様の手順でフォロアアップ調査を実施し、ベースラインデータとフォロアアップデータを統合した。ベースライン調査とフォロアアップ調査の両方に回答したのは3,121名(男性2,262名、女性859名:フォロアアップ率90.2%)であり、このうち、少数であった男性非正規社員(28名)およびデータに欠損値のあった50名を除外し、男性正規社員2,185名、女性正規社員324名、女性非正規社員506

名のデータを用いて、縦断的な関連を検討した。

## 4. 研究成果

### (1) ベースライン調査の結果

ベースラインデータを用いた横断的な解析の結果、男性正規社員において、手続き的公正(が低いこと)と、心理的ストレス反応(K6得点が5点以上と定義)、高LDLコレステロール血症(140mg/dL以上と定義)との間に有意な関連が認められた。また、相互作用的正義(が低いこと)と、心理的ストレス反応、高トリグリセリド血症(150mg/dL以上と定義)との間に有意な関連が認められた。

一方、女性社員においても、手続き的公正および相互作用的正義(が低いこと)と心理的ストレス反応との間に有意な関連が認められたが、身体的健康指標との間には、いずれも有意な関連は認められなかった。

更に、女性社員を雇用形態別に分類した場合、心理的ストレス反応に対する雇用形態と相互作用的正義との交互作用に有意傾向が認められ、非正規社員は、正規社員に比べ、相互作用的正義と心理的ストレス反応との関連がより強かった。

### (2) フォロアアップ調査の結果

ベースラインデータとフォロアアップデータを統合した縦断的な解析の結果、男性正規社員および女性社員において、ベースライン時の手続き的公正および相互作用的正義(が低いこと)とフォロアアップ時の心理的ストレス反応との間に有意な関連が認められ、とくに男性正規社員では、ベースライン時の心理的ストレス反応の有無を調整しても、その関連は有意であった。

女性社員においては、ベースライン時の手続き的公正(が低いこと)とフォロアアップ時の高血圧(収縮期血圧140mmHg以上または拡張期血圧90mmHg以上と定義)との関連が有意傾向にあり、この関連はベースライン時の高血圧の有無を調整しても有意傾向であった。

更に、女性社員を雇用形態別に分類した場合、高トリグリセリド血症に対する雇用形態と相互作用的正義との交互作用に有意傾向が認められ、正規社員は非正規社員に比べ、ベースライン時の相互作用的正義とフォロアアップ時の高トリグリセリド血症との関連がより強かった。

尚、男女ともにベースライン時の組織的公正とフォロアアップ時の高LDLコレステロール血症および低HDLコレステロール血症(40mg/dL未満と定義)との間に有意な関連は認められなかった。

### (3) 限界点と今後の課題

本研究課題は2年間で終了となるが、フォロアアップ期間が1年間と短いことや、男性非正規社員については、少人数のために正規

社員との違いを明らかにすることができなかつたことなどの限界点がある。組織的公正による従業員への健康影響について、強固なエビデンスを得るためには、引き続き、長期的なフォローを行うとともに、男性非正規社員についても対象者数を増やし、検討を行っていく必要がある。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計6件)

Inoue A, Kawakami N, Tsuno K, Tomioka K, Nakanishi M, Organizational justice and major depressive episodes in Japanese employees: a cross-sectional study, *Journal of Occupational Health*, 査読有, 55 巻, 2013, 47 - 55

DOI:10.1539/joh.12-0131-0A

井上彰臣, 若年層が育つ組織風土・組織的公正の研究と実践への応用, 関西福祉科学大学 E A P 研究所紀要, 査読無, 7 巻, 2013, 29 - 34

Inoue A, Kawakami N, Tsuno K, Shimazu A, Tomioka K, Nakanishi M, Job demands, job resources and work engagement of Japanese employees: a prospective cohort study, *International Archives of Occupational and Environmental Health*, 査読有, 86 巻, 2013, 441 - 449

DOI:10.1007/s00420-012-0777-1

Inoue A, Kawakami N, Tsuno K, Tomioka K, Nakanishi M, Organizational justice and psychological distress among permanent and non-permanent employees in Japan: a prospective cohort study, *International Journal of Behavioral Medicine*, 査読有, 20 巻, 2013, 265 - 276

DOI:10.1007/s12529-012-9224-7

Inoue A, Kawakami N, Tsutsumi A, Shimazu A, Miyaki K, Takahashi M, Kurioka S, Eguchi H, Tsuchiya M, Enta K, Kosugi Y, Sakata T, Totsuzaki T, Association of job demands with work engagement of Japanese employees: comparison of challenges with hindrances (J-HOPE), *PLOS ONE*, 査読有, 9 巻, 2014, e91583

DOI:10.1371/journal.pone.0091583

Nakagawa Y, Inoue A, Kawakami N, Tsuno K, Tomioka K, Nakanishi M, Mafune K, Hiro H, Effect modification by coping strategies on the association of organizational justice with psychological distress in Japanese workers, *Journal of Occupational Health*, 査読有, 56 巻, 2014, 111 - 123

DOI:10.1539/joh.13-0233-0A

### 〔学会発表〕(計8件)

Inoue A, Mafune K, Nozaki T, Hiro H, Job

strain, social support at work, and smoking cessation among Japanese male employees: a three-year prospective cohort study, 23rd Korea-Japan-China Joint Conference on Occupational Health, 2012 年 5 月 24 日, 智異山家族ホテル(韓国)

井上彰臣, 川上憲人, 津野香奈美, 島津明人, 富岡公子, 中西麻由子, 仕事の要求度・資源とワーク・エンゲイジメントとの関連: 前向きコホート研究, 第 85 回日本産業衛生学会, 2012 年 6 月 2 日, 名古屋国際会議場(名古屋)

Inoue A, Kawakami N, Tsutsumi A, Shimazu A, Miyaki K, Takahashi M, Kurioka S, Eguchi H, Enta K, Kosugi Y, Sakata T, Organizational justice and psychological distress among Japanese workers with high or low job insecurity: findings from the Japanese study of Health, Occupation, and Psychosocial factors related Equity (J-HOPE), 12th International Congress of Behavioral Medicine, 2012 年 9 月 1 日, ブダペストヒルトン(ハンガリー)

井上彰臣, 川上憲人, 堤明純, 島津明人, 宮木幸一, 高橋正也, 栗岡住子, 遠田和彦, 小杉由起, 坂田知子, 戸津崎貴文, 仕事の要求度とワーク・エンゲイジメントとの関連: 「チャレンジ」要素と「ヒンドランス」要素の比較検討 (J-HOPE), 第 86 回日本産業衛生学会, 2013 年 5 月 15 日, ひめぎんホール(松山)

中川悠子, 井上彰臣, 川上憲人, 津野香奈美, 富岡公子, 中西麻由子, 真船浩介, 廣尚典, 組織的公正と心理的ストレスの関連にコーピング特性が与える影響, 第 23 回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会, 2013 年 9 月 27 日, 名古屋国際会議場(名古屋)

井上彰臣, 川上憲人, 江口尚, 宮木幸一, 堤明純, 企業における組織的公正と虚血性心疾患の危険因子との関連, 2013 年 11 月 15 日, 仙台市情報・産業プラザ(仙台)

日野亜弥子, 井上彰臣, 川上憲人, 津野香奈美, 富岡公子, 中西麻由子, 真船浩介, 廣尚典, 時間外労働時間と心理的ストレス反応との関連: 仕事の資源による緩衝効果の検討, 2013 年 11 月 15 日, 仙台市情報・産業プラザ(仙台)

Inoue A, Kawakami N, Tsutsumi A, Shimazu A, Miyaki K, Takahashi M, Kurioka S, Eguchi H, Enta K, Kosugi Y, Sakata T, Totsuzaki T, Association of job demands with work engagement of Japanese employees: comparison of challenges with hindrances, 4th Expert Workshop on Psychosocial Factors at Work in Asia Pacific, 2013 年 11 月 28 日, クルンシーリバーホテル(タイ)

〔図書〕  
なし

〔産業財産権〕  
出願状況  
なし

取得状況  
なし

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

井上 彰臣 (INOUE, Akiomi)  
産業医科大学・産業生態科学研究所・助教  
研究者番号：7061767

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし